

# 北海道学生研究会

# SCAN

(Sophisticated Community and Academics for Networking)

## 2021

大会テーマ

『関係人口はどう作るべきか？—ワーケーション元年と地域』

## 予稿集

○参加内容

開催日時	12月4日(受付 9:00～) 12月5日(受付 9:45～)
オンライン会場	Zoom
参加費	無料
主催	北海道学生研究会 SCAN (札幌大学)

○企業

協賛企業	丸水札幌中央水産株式会社
特別協力	学校法人 札幌大学 (株)たかじん (株)釧路新聞社 経済産業省北海道経済産業局 (株)北海道銀行 (株)北海道新聞社 北海道鷹栖町 (株)北海道二十一世紀総合研究所
後援	札幌大学経済・経営学会

○予選審査員

会社名	所属・役職	審査員	会場
経済産業省 北海道経済産業局	総務企画部 企画調査課	小玉 龍之介 様	第1会場
(株)北海道銀行	地域創生部	井手口 秀幸 様	第1会場
(株)たかじん	代表取締役	高橋 正幸 様	第2会場
(株)北海道新聞社	営業統括本部 マーケティングセンター専任職	結城 敦史 様	第2会場
学校法人 札幌大学	理事長 (元 北海道副知事)	荒川 祐生 様	第3会場
(株)北海道二十一世紀 総合研究所	調査部・特任審議役	木本 晃 様	第3会場
(株)釧路新聞社	代表取締役	星 匠 様	第4会場
北海道鷹栖町	総務企画課 地域振興係 主事	笠原 祐太 様	第4会場

○本選審査員

会社名	所属・役職	審査員	会場
経済産業省 北海道経済産業局	総務企画部 企画調査課	小玉 龍之介 様	第1会場
(株)北海道新聞社	営業統括本部 マーケティングセンター専任職	結城 敦史 様	第1会場
(株)北海道二十一世紀 総合研究所	調査部・特任審議役	木本 晃 様	第1会場

○発表参加校、参加チーム

・参加大学

釧路公立大学、北海学園大学、北星学園大学、函館大学、久留米大学、札幌大学

・参加高校

郁文館高等学校

・参加チーム

Whose×Foods Project

○顧問教員

釧路公立大学	東 祐三 先生 神野 照敏 先生
北海学園大学	大貝 健二 先生 宮島 良明 先生
北星学園大学	野原 克仁 先生
函館大学	佐藤 浩史 先生
久留米大学	穴澤 務 先生
札幌大学	中山健一郎 先生 武者 加苗 先生
郁文館高等学校	加藤あゆみ 先生 高橋 慶熙 先生
Whose×Foods Project	古谷 知之 先生

○賞について

優秀賞	各予選会場から1つ
最優秀賞	優秀賞受賞校から1つ

## 第12回(2021)合同研究発表会テーマ

# 「関係人口はどう作るべきか？—ワーケーション元年と地域」

### 【テーマの説明】

第12回大会テーマを説明したいと思います。

この合同研究発表会では、毎年、統一テーマが設定され、時には統一テーマに沿った研究発表も行われてきましたが、基本的にはあまりわかっていないこと、あまり知られていないことを貪欲に学ぶ意味を込めてテーマ設定されてきました。

今大会では、みなさんのあまり聞きなれない「関係人口」、「ワーケーション」をテーマに盛り込みました。

関係人口とは、今、話題の新書『関係人口の社会学』の著書、田中輝美氏(島根県立大学准教授)によれば、地域再生を担う新たな地域外の主体として位置づけしている。いわゆる、地域再生に積極的に関与してくれるよそ者です。

地域住民が主体となって地域再生に乗り出している地域もあれば、よそ者を上手に活用して地域再生につなげている地域もあります。また、田中氏のいう地域再生を地域住民がよそ者と協働して行っている地域もあります。北海道は関係人口ランキングでは、福島県、沖縄県に次ぐ第3位にランクしており、関係人口に恵まれた地域となっています。

関係人口をどう増やすか、関係人口をどう活かすか、地域活性化や再生、その他の諸問題を地域の自力解決以外にも選択肢を増やす試みに着目してみてもはどうでしょうか。

副題にあるワーケーションも関係人口を増やすための1つの試みです。

ワーケーションとは、仕事(ワーク)と休暇(バケーション)を組み合わせた造語です。

2019年当時、官房長官であった菅首相が提案した政策です。もともとはコロナ禍を想定した働き方改革としてではなく、2020年に予定されていた東京オリンピック開催を念頭に置いた一政策であったようです。

2019年に生じた、Covid-19により世界的規模でヒトやモノの移動が制限され、観光・宿泊業や飲食業では大きな経済打撃を受ける中でニューノーマルといわれる、新しいスタイルの常識が生まれるようになり、在宅テレワークやリモート・オンライン会議が日常化しました。ワーケーションもある意味、その延長上にあると考えます。

コロナ禍は、これまでも指摘されてきた、東京一極集中の弊害やデジタル化の遅れを鮮明化させ、また人口密集への不安やテレワークの普及を背景に、地方への人や企業の新たな流れを作り出しています。

逆に地方への移住促進に力を入れてきた自治体には、地方への関心が高まっている今のこの環境は、千載一遇の好機という見方もできます。

リモートワークや二拠点居住などの新しい働き方・暮らし方が進みつつあり、首都圏でなくても地方にいながらにして仕事が可能になってきています。

北海道は自然や食に恵まれ、観光でも人気のある地域であり、自然豊かな環境で仕事をし、たっぷり自然や観光、食を楽しんでもらえる魅力を持っています。

北海道庁でも「北海道型ワーケーション」(北海道ならではのワーケーション)を掲げ、首都圏企業にどんどん北海道でのワーケーションを試してもらいたいと意気込んでいます。1つの地域に特化したワーケーションから複数の地域やエリアを結んでの周遊ワーケーション。広大な土地に恵まれた、北海道ではそれが可能です。

現在、北海道では55市町村がワーケーションを取り入れた事業の推進に取り組んでおり、その様子を北海道型ワーケーションポータルサイトで参照することができます。

私たちはこのワーケーションの浸透により、ますます地域関心が広がり、また地域研究がより重要性を持つと確信しています。今こそ地域の魅力の再発見と発信，地域にしながら学習と地域貢献の両立、地域をみんなで再認識，再定義することが大切になるでしょう。

今大会ではワーケーションに詳しい方をお招きして，ワーケーションの魅力，可能性，また他の地域によりも評価してもらえらるワーケーションの在り方を一緒に考えていきたいと思ひます。

どうぞ講演会をお楽しみください。

## ○参加注意事項

Zoom の名前等の表示について

- ・ Zoom 上ではハンドルネームは使用しないでください。所属と名前をお願いします。
- ・ 発表学生 ※1 『大学名 発表チーム名 名前』 (例) 札大(中山ゼミ A) 伊澤・山形
- ・ 聴講参加 ※2 『大学名 学年 名前』 (例) 札大 2年 山形  
『大学名 授業名 名前』 (例) 札大 希望学入門 山形
- ・ 審査員・列席者 『所属団体名 名前』

※1 Whose×Foods Project については『発表チーム名 名前』(例)WFP ○○○○

※2 学生以外の聴講参加は『企業及び機関、団体名 名前』

カメラ/マイク設定について

- ・ 発表学生は発表時にはカメラ・マイク ON、発表していないときは両方 OFF。
- ・ 聴講参加の学生はカメラ・マイク OFF、ただし質問時には両方 ON。
- ・ 審査員は発言時にカメラ・マイク ON。
- ・ 休憩中は全ての方がカメラ・マイク OFF。

大会に参加する皆様へ

- ・ 大会発表の前に第 1 会場にて「受付，開会式，オリエンテーション」を行います。必ずご参加ください。
- ・ 12月4日 11:35 より第 1 会場にて総会を行います。総会では、今後の大会の在り方について審議します。
- ・ 12月5日 14:30 より第 1 会場にて表彰式を行います。
- ・ 大会本部への緊急連絡および確認事項は第 5 会場にて対応します。

緊急対応(第 5 会場)

<https://zoom.us/j/97070612142?pwd=N2kzYnVpY1JdGZkeDhad3gvQXFEdz09>

ミーティングID: 970 7061 2142

パスコード: Dq8QSA

## ○合同研究発表会 参加後アンケート

合同研究発表会にご参加いただいた後に、アンケートのご回答をお願いいたします。

今大会のご意見・ご感想をいただければ幸いです。

<https://forms.gle/e2W7rvEDgaz5mjAy6>

# ○タイムテーブル(12月4日、12月5日)

北海道学生研究会SCAN 第12回合同研究発表会(2021年12月4日～5日)

		北海道学生研究会SCAN 第12回合同研究発表会(2021年12月4日～5日)					
		中山	大野	石崎	大嶋	小坂	
		阿部・小林	工藤	石崎・高橋・廣島	大嶋	小坂	
		小玉様, 井手口様	高橋様, 結城様	荒川様, 木本様	笠原様, 星様		
12月4日(土)初日		会場Zoomリンク先	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
		ミーティングID	857 8681 8916	980 2694 9899	965 3874 0276	954 6371 4864	970 7061 2142
		パスワード	580268	7GXmeK	pu2zj	iunHf1J	Dq8QSA
9:20-9:50	30分	開会式					緊急対応
9:50-10:05	15分	ルール説明・ガイダンス					緊急対応
10:05-10:10	5分	移動					司会者対応
10:10-10:15	5分	司会者挨拶(各会場の司会者挨拶)					10:15-10:25
10:15-10:25	10分	審査員挨拶(審査員は各会場にてご挨拶)					札幌大学武者ゼミ ゲスト発表 アフターセッション
10:25-10:40	15分	第1発表	北海道大学 宮島ゼミB	函館大学 佐藤ゼミ	釧路公立大学 東ゼミD	釧路公立大学 東ゼミA	10:30-10:40
10:40-10:50	10分	質疑, 審査員講評					札幌大学武者ゼミ ゲスト発表 アフターセッション
10:50-11:00	10分	第1発表のアフターセッション(各会場)及び次の発表準備					10:50-11:00
11:00-11:15	15分	第2発表	釧路公立大学 神野ゼミD	釧路公立大学 東ゼミB	北海道大学 宮島ゼミA	釧路公立大学 神野ゼミC	11:05-11:15
11:15-11:25	10分	質疑, 審査員講評					札幌大学武者ゼミ ゲスト発表 アフターセッション
11:25-11:35	10分	第2発表のアフターセッション(各会場)及び次の総会準備					11:20-11:30
11:35-12:05	30分	総会	総会	昼休み			久留米大学穴澤ゼミ ゲスト発表 アフターセッション
12:05-12:25	20分	昼休み	昼休み	昼休み			
12:25-12:40	15分	第3発表	郁文館高等学校A2	北星学園大学 野原ゼミ	釧路公立大学 神野ゼミA	郁文館高等学校A3	12:25-12:35
12:40-12:50	10分	質疑, 審査員講評					12:40-12:50
12:50-13:05	15分	第4発表	釧路公立大学 東ゼミC	札幌大学 中山ゼミA	郁文館高等学校A8	釧路公立大学 神野ゼミB	13:00-13:10
13:05-13:15	10分	質疑, 審査員講評					Whose×Foods Project アフターセッション
13:15-13:25	10分	ゲスト発表	郁文館ゲスト発表 (A5班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A4班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A9班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A11-10班) アフターセッション	13:15-13:25
13:25-13:30	5分	準備時間					郁文館ゲスト発表 (A6班) アフターセッション
13:30-13:45	15分	第5発表	札幌大学 中山ゼミC	札幌大学 中山ゼミB	釧路公立大学 東ゼミE		13:30-13:40
13:45-13:55	10分	質疑, 審査員講評					13:55-14:05
13:55-14:05	10分		第5発表アフター セッション	第5発表アフター セッション	第5発表アフター セッション		札幌大学 武者ゼミゲスト発表 アフターセッション
14:05-14:10	5分	移動時間					閉鎖
14:10-16:00	110分	審査会とワーケーションシン ポジウム	シンポジウム開催	審査会場			
16:00-16:15	15分	休憩	休憩				
16:15-16:40	25分	審査発表	審査発表				
16:40-16:50	10分	オリエンテーション	明日の説明				

		中山	大野
		阿部	大野
12月5日(日)2日目		会場Zoomリンク先	第1会場
		ミーティングID	815 8190 9963
		パスワード	510320
		第2会場	994 2504 9390
			9uYNK0
10:00-10:15	15分	ルール説明・ガイダンス	
10:15-10:20	5分	司会者挨拶	
10:20-10:30	10分	審査員挨拶	
10:30-10:50	20分	第1発表	
10:50-11:00	10分	質疑	
11:00-11:20	20分	第2発表	第1発表 アフターセッション
11:20-11:30	10分	質疑	
11:30-11:50	20分	第3発表	第2発表 アフターセッション
11:50-12:00	10分	質疑	
12:00-12:50	50分	昼休み休憩	
12:50-13:10	20分	第4発表	第3発表 アフターセッション
13:10-13:20	10分	質疑	
13:20-13:30	10分	休憩	第4発表 アフターセッション
13:30-14:30	60分	講演会&審査会	特別講演会 審査会
14:30-14:45	15分	表彰式	
14:45-14:55	10分	閉会式	

○会場リンク先(Zoom)

12月4日
<b>第1会場</b> <a href="https://us06web.zoom.us/j/85786818916?pwd=NVMzNFJsano0Q3ZLc0JVva2U5cmhWQT09">https://us06web.zoom.us/j/85786818916?pwd=NVMzNFJsano0Q3ZLc0JVva2U5cmhWQT09</a> ミーティングID: 857 8681 8916 パスコード: 580268
<b>第2会場</b> <a href="https://zoom.us/j/98026949899?pwd=eW5ldFJXVnVpbkpGcnZGSXlueTNLQT09">https://zoom.us/j/98026949899?pwd=eW5ldFJXVnVpbkpGcnZGSXlueTNLQT09</a> ミーティングID: 980 2694 9899 パスコード: 7GXmeK
<b>第3会場</b> <a href="https://zoom.us/j/96538740276?pwd=QmtEM1JaNHJ6U0xtbWFuZk1XMk1tUT09">https://zoom.us/j/96538740276?pwd=QmtEM1JaNHJ6U0xtbWFuZk1XMk1tUT09</a> ミーティングID: 965 3874 0276 パスコード: pu2zj
<b>第4会場</b> <a href="https://zoom.us/j/95463714864?pwd=NnlDanpiNm5PWWVUaFh5REF3ZmRBQT09">https://zoom.us/j/95463714864?pwd=NnlDanpiNm5PWWVUaFh5REF3ZmRBQT09</a> ミーティングID: 954 6371 4864 パスコード: iunHf1J
<b>第5会場</b> <a href="https://zoom.us/j/97070612142?pwd=N2kzYnVpY1lJdGZkeDhad3gvQXFEdz09">https://zoom.us/j/97070612142?pwd=N2kzYnVpY1lJdGZkeDhad3gvQXFEdz09</a> ミーティングID: 970 7061 2142 パスコード: Dq8QSA
12月5日
<b>第1会場</b> <a href="https://us06web.zoom.us/j/81581909963?pwd=d2s1NmdkRk5HWEEhYY3NrVjRvcVBIUT09">https://us06web.zoom.us/j/81581909963?pwd=d2s1NmdkRk5HWEEhYY3NrVjRvcVBIUT09</a> ミーティングID: 815 8190 9963 パスコード: 510320
<b>第2会場</b> <a href="https://zoom.us/j/99425049390?pwd=bUNUYWhvbWdRWGItd0Q2TFg0TVlkdz09">https://zoom.us/j/99425049390?pwd=bUNUYWhvbWdRWGItd0Q2TFg0TVlkdz09</a> ミーティングID: 994 2504 9390 パスコード: 9uYNK0

○発表チーム・発表テーマ(審査対象)

	発表者名	発表タイトル
釧路公立 大学	神野ゼミA	青山凌大・嶋中尋哉・中村圭太・成田駿平 釧路アースダイバー——歩いて体感する釧路の歴史の層——
	神野ゼミB	高橋大希・前川朋也・和賀右丞・佐藤真菜 公共空間の創出と住民意識 ——ノーマライゼーションを目指した釧路市美原地区の40年とこれから——
	神野ゼミC	高坂祐人・東島峻・佐藤直喜・宇佐悠希 シャッター街からウォークアブルタウンへ——釧路市中心市街地北大通の挑戦——
	神野ゼミD	佐々木桂門・田中琳・中澤知生・藤川優心 釧路におけるエネルギーの自給自足——石炭火力から自然エネルギーへの転換——
	東ゼミA(1班)	笹川凌汰, 中里有佑, 本巢 太郎 矢口景冬, 吉田真終 企業誘致と地域の活性化
	東ゼミB(2班)	石野 綾惇, 内館 海利, 細井 裕矢, 山川 紗 翼 人口変化に関わる公共サービスの分析
	東ゼミC(3班)	秋田玲奈, 木村彩乃, 小阪麻由 永田光二, 波田地朝日, 三国蒼侑 生産物の付加価値から見る地域経済の活性化
	東ゼミD(4班)	池 拓哉, 伊東 雅弥, 能戸 健太郎 地方都市の人口誘致に求められる政策とは ～回帰分析による地方都市の地価の決定要因
東ゼミE(5班)	佐々木聖剛, 三好健太郎, 古川尚優, 森山翔太郎 電子地域通貨による地域活性化	
北海学園 大学	宮島ゼミA	高田大貴 細川稔吾 合羽井駿太 これからの観光発展～倶知安町のインバウンド観光から～
	宮島ゼミB	阿久津至 後藤優大 林優太 眞壁尚史 外国人労働者の地域経済及び産業の影響
北星学園 大学	野原ゼミ	西谷 中村 池田 自然×ワーケーション
函館大学	佐藤ゼミ	商学実習八雲プロジェクト ワーケーションと地域活性化のリテンションモデルの探索 —八雲まるごとサブスクの提案—
札幌大学	中山ゼミA	田口智博, 塚田梨来, 分銅将大, 廣瀬巧侃, 伊藤 さやか わたしたちの関係人口創出—空き物件を活用したビジネスモデル
	中山ゼミB	西村魁十, 宮浦開登, 窪田 樹, 鈴木啓太郎 ふるさと納税を活用したHFLの経営安定化～HBLの分裂したHFLへの期待
	中山ゼミC	夏井坂至恩 富岡翔 農業の親族後継者問題を解決する
郁文館高 等学校	郁文館A2	草本, 森, 若井 将来に対する可能性の認識差～東京都と北海道の教育整備における差～
	郁文館A3	伊藤, 斎藤, 張, 速水 Webサイトが握る地方創生のカギ
	郁文館A8	大橋, 辻本, 木本, 児玉 夕張の空き家問題について考える

○ゲストチーム・発表テーマ(審査対象外)

2021年度新設「ゲスト発表」発表チーム

久留米大学	穴澤ゼミ	前田 浩敏	生まれの街・鹿児島市
札幌大学	武者ゼミA(1班)	藤岡、上田、星、熊谷、武田、菅	地域活性化につながる動物愛護
	武者ゼミB(2班)	影山・安孫子・水本・山本・平	少子高齢化による年金への影響
	武者ゼミC(3班)	関根、太田、大西、米谷	機械化と雇用
	武者ゼミD(4班)	三原、村田、近藤、戸田	農業と地域活性化
北海学園大学	大貝ゼミ		北海道のお酒の未来
Whose×Foods Project			SDGsの括り
郁文館高等 学校	A1(1班)	池田理恵, 上村愛, 佐高理奈, 向井菜月	アイヌ文化と現代ファッションの融合～アイヌ美術を日常へ～
	A4(4班)	門倉, 河村, 植田, 遠藤	夕張市のふるさと納税売り上げを伸ばすためには
	A5(5班)	小泉, 亀山, 滝口, 中山	夕張市の地方創生 6次産業化での雇用促進の可能性
	A6(6班)	青島来実, 三上紗穂, 大淵夢乃	民族差別に関する一考察 (アイヌ民族を例にして民族差別を知る)
	A7(7班)		アイヌの人々に対する差別問題～アイヌ新法が現在の教育に与える影響～
	A9(9班)	岡本, 須藤, 北川, 吉田	夕張メロンの魅力 夕張メロンの魅力で夕張を救いたい
A11(10班)	今田, 佐多賀, 佐藤	スマート農業による夕張メロンの安定生産	

○審査対象の発表概要

第1会場

<p>第1発表</p>	<p>北海学園大学 宮島ゼミB 「外国人労働者の地域経済及び産業の影響」</p>	<p>近年の日本では、少子高齢化が進行しており、生産年齢人口の減少傾向が続いている。そのような中で日本の産業を維持していくために現在多くの外国人労働者が働いている。しかし、その外国人労働者には、セクハラやパワハラ、差別など多くの問題が発生しており、失踪者が年々増加している。また、新型コロナウイルスの影響も受けている。このように多くの問題を抱えている外国人労働者について、私達が暮らしている北海道、特に苫小牧と豊浦の漁業の事例を中心に考える。</p>
<p>第2発表</p>	<p>釧路公立大学 神野ゼミD 「釧路におけるエネルギーの自給自足 ——石炭火力から自然エネルギーへの転換——」</p>	<p>本報告の目的は、これからの釧路が自給自足すべきものにエネルギーがあると捉え、その可能性を探ることである。具体的には、石炭に代わる自然エネルギー資源が釧路にあるのかどうか、またその資源はどのような課題を抱えているのかを明らかにしたい。</p> <p>地域でエネルギー自給を行うことの意義は、1. 他地域からのエネルギー移入をやめることで大量の貨幣の域外流出を防ぎ、域内に貨幣を留めることが可能になること、2. 非常時のエネルギー供給源を確保することでエネルギー供給リスクの分散化に繋がり、エネルギーを安定供給することが可能になること、さらに3. 自然エネルギーを活用することで温室効果ガスを削減し、クリーンなエネルギー供給が可能になることなどが挙げられる。</p> <p>本報告では、釧路のエネルギー事業の現状を踏まえ、釧路に適した自然エネルギー資源の活用を提案する。その際、なぜそう考えられるのか、エネルギーのもつ物質的な側面と、エネルギー供給システムがもつ社会制度的な側面の二つの側面から説明していきたい。</p>
<p>第3発表</p>	<p>都文館高等学校 A2 「将来に対する可能性の認識差～ 東京都と北海道の教育整備における差～」</p>	
<p>第4発表</p>	<p>釧路公立大学 東ゼミC(3班) 「生産物の付加価値から見る地域経済の活性化」</p>	<p>本研究では釧路市の経済について、更なる発展を目指すために統計や経済循環図などを用いて現状分析をすることで課題を明らかにし、今後の具体的な解決案の提案を試みるものである。釧路市の経済の課題として、主に(1)移出力が弱いこと(2)3次産業に偏っていることなどが挙げられる。移出額が移入額を下回っているため市内の経済はマイナス経済に陥っている。そのため釧路市では市内総生産を上げる必要があると考えられる。また、釧路製紙工場の撤退によって2次産業を中心に大きな打撃を受けると予想されるため、それに代わる新たな産業を作り出す必要である。そこで私たちは6次産業化に注目し、釧路市ならではの6次産業化を考案する。実際に導入した場合の効果の有無について、経済理論を用いて証明しその実現可能性を考えることとする。</p>
<p>第5発表</p>	<p>札幌大学 中山ゼミC 「農業の親族後継者問題を解決する」</p>	<p>少子高齢化社会の進展により、2000年代以降、後継者不足による事業承継問題が深刻化した。国や自治体は新規就農者の拡大に努める政策を打ち出してきたものの、根本的な問題解決が図られているとは言い難い。私たちの研究では親族後継者の育成や環境整備こそ本来あるべき解決問題と位置づけ、安易な未経験者の新規就農者の拡大には否定的な意見を持つ。親族後継者に目的を絞った自治体や業界団体がなすべき政策提言を行いたい。</p> <p>とはいえ、親族後継者自身はこの問題をどのようにとらえているだろうか？当事者の意識や悩み、本音を知る必要がある。親族後継者問題の当事者となる若者にアンケート調査を行った結果、就業の選択機会や将来事業への不安が明らかとなった。本研究では親族後継者が抱える不安や悩みに寄り添い、それをどう解決すべきかの政策提言を行っている。地元での就労機会を整備することは地域活性化を行う上での大前提であると考え。</p>

## 第 2 会場

<p>第 1 発表</p>	<p>函館大学 佐藤ゼミ  <b>商学実習八雲プロジェクト</b>  <b>「ワーケーションと地域活性化の</b>  <b>リテンションモデルの探索</b>  <b>—八雲まるごとサブスクの提案—</b></p>	<p>ワーケーションは、盛り上がりつつあるが、どこの地方でも成功する素地があるとは考えにくい。その地域によって戦略は変わってくるはずであり、その地域の特徴を消費者に理解してもらう手段が必要となる。また、ワーケーションを提供する側が本質的にワーケーションをどのようにとらえてよいのか不安定であり地域のオリジナリティにより競争優位を獲得するにはどのようにするのか、本発表はその実践事例となるよう一部を提案する。</p>
<p>第 2 発表</p>	<p>釧路公立大学 東ゼミ B (2 班)  <b>「人口変化に関わる公共サービスの分析」</b></p>	<p>この研究では、地方財政の学問の一環として、私たちが今住んでいる北海道にフォーカスし、北海道内の主要な地域において、国勢調査や RESAS などの資料を用いて、人口増加に関わりそうな要素についていくつかグラフをまとめていく。そのグラフから分かる結果を元に、人口減少によるデメリットおよび人口増加に何が必要かを調べる。この研究の目的として、人口が増加している都市がいくつかある一方、釧路市を含む多くの都市の人口が減少している傾向であるため、その原因を探りつつ改善策を考えていきたい。</p>
<p>第 3 発表</p>	<p>北星学園大学 野原ゼミ  <b>「自然×ワーケーション」</b></p>	<p>北海道の自然を生かしたワーケーションの提案をさせていただきます。私たちの研究で、幼少期の自然体験の頻度と、環境問題への関心に関連があることが分かりました。まずは、北海道の自然の豊かさを何らかの方法でアピールし、それによって関係人口を増やします。次に、それによって移り住んでくれた人の次の世代が北海道の自然に触れることで、環境意識の高い人に育て、さらにその次の世代へと環境意識をつないでいき、持続可能な社会実現のために活躍してもらいます。</p>
<p>第 4 発表</p>	<p>札幌大学 中山ゼミ A  <b>「わたしたちの関係人口創出</b>  <b>—空き物件を活用したビジネスモデル—</b></p>	<p>首都圏およびその他地域の北海道関係人口に着目し、経由地としての札幌(地方大都市)を介して、札幌発の、札幌と北海道過疎地域を結ぶ関係人口の創出モデルの可能性を考察したい。</p> <p>北海道は 2021 年度の関係人口ランキング第 2 位で約 750 万人の関係人口がいとされている。積極的な見方をすれば、北海道の人口(約 540 万人)を上回る関係人口は、地域活性化の潜在的な重要な資産であろう。関係人口の有効活用次第では、北海道の市場は最大 1,290 万人規模にまで膨れ上がる。一方、悲観的な見方をすれば、もともと北海道と縁のあった人たちが他地域に流出した人口という別の見方もできる。道外の関係人口は潜在であろうと、顕在であろうと次世代の若者にまで繋げていく必要がある。今ある地方大都市機能を活用した過疎地域への関係人口創出モデルが現実的であると睨み、地方大都市に眠る空き物件を活用したコワーキングアパートメントの提案を行う。</p>
<p>第 5 発表</p>	<p>札幌大学 中山ゼミ B  <b>「ふるさと納税を活用した HFL の経営安定化～</b>  <b>HBL の分裂した HFL への期待」</b></p>	<p>2019 年、北海道初となる野球独立リーグ、HBL(北海道ベースボールリーグ)が誕生し、翌年、美唄ブラックダイヤモンド、富良野レラハンクスの 2 球団による公式戦がスタートした。2021 年には土別サムライブレイズ、石狩レッドフェニックスの 2 球団が加わり、わずか 2 年で 4 球団が加入する HBL が誕生した。しかし、所属球団内で HBL 理念や運営の方向性に対して不協和音が生じ、異論を唱える球団が 2021 年秋に HBL から離脱し、新たな独立リーグ HFL(北海道フロンティアリーグ)を立ち上げた。HFL の理念からは、野球を通じた関係人口の創出と地域活性化の在り方は、二拠点居住から移住・定住化の促進への転換と、市場拡大を通じた球団経営の安定化が見え隠れする。我々は新たな方向性を模索し、より強固な形で地域活性化を追求し、本格的に野球に取り組む HFL に期待したい。札幌大野球部の目線から HFL の発展に何が出来るかを考察した。</p>

### 第3会場

<p>第1発表</p>	<p><b>釧路公立大学 東ゼミD(4班)</b>  <b>「地方都市の人口誘致に求められる政策とは          ～回帰分析による地方都市の地価の決定要因～」</b></p>	<p>本研究の目的は、人々が地方都市において、どのような街に住みたいと考えるのかということをも明らかにし地方において優先すべき政策はどのようなものなのかを考察しようと試みることである。調査対象は道内の市すべてであり、札幌市は区ごとに分けて調査を行う。具体的な調査方法としては、各都市の平均地価を調べ、さらにその地価に影響を与えていると予想される指標、例えば人口や商業施設の数などとの関係を回帰分析にかけることによって、地方都市の地価により多くの影響を与えると考えられる要素を割り出すというものである。</p>
<p>第2発表</p>	<p><b>北海学園大学 宮島ゼミA</b>  <b>「これからの観光発展          ～倶知安町のインバウンド観光から～」</b></p>	<p>新型コロナウイルスの影響を受け、観光客数の減少など衰退が進む北海道観光業を再度盛り上げていくためには何ができるのか。「地域」というテーマの中で、我々は「地域観光」に注目し、古くから観光地と知られ、近年、国内国外問わず多くの観光客を集客している「倶知安町」に目を向けた。今や道内で、札幌、小樽などの主要都市に続いて高い観光力を誇る倶知安町の魅力とは何か。また、観光業拡大の引き金となった、リゾート開発によるインバウンド観光の事例をもとに、これからの地域観光発展の要因を考察する。</p>
<p>第3発表</p>	<p><b>釧路公立大学 神野ゼミA</b>  <b>「釧路アースダイバー          ——歩いて体感する釧路の歴史の層——」</b></p>	<p>本報告の目的は、釧路の歴史の層を体感する新しいフットパスの提案で、現在行われている元町フットパスを成長させることである。          釧路橋南地区内の「元町」と呼ばれているエリアでフットパスを企画している団体と我々との間で、「元町範囲外の橋南地区にもフットパスの範囲を広げたい」という共通意識があることが、団体へのインタビューより得られた。          釧路橋南地区は、古くから人間が居住している地域かつ、地形の変化に富む地域である。そこで形成されてきた近代以前の歴史を活用し、中沢新一氏のいう「アースダイバー」的アプローチを用いて、釧路橋南地区の歴史の層を体感できる新しいフットパスコースを提案する。この提案により、釧路橋南地区全体へフットパスの範囲を広げられるとともに、「コースの充実による参加者の増加」「釧路橋南地区への関心増加」「史跡の持つ観光資源としての価値の理解」「コースのマンネリ化の解消」の4点の効果が期待できる。</p>
<p>第4発表</p>	<p><b>都文館高等学校 A8</b>  <b>「夕張の空き家問題について考える」</b></p>	

## 第 4 会場

<p>第 1 発表</p>	<p><b>釧路公立大学 東ゼミ A (1 班)</b> <b>「企業誘致と地域の活性化」</b></p>	<p>私たちのグループは、釧路の人口減少と産業の衰退という現状に着目して、その解決策として企業誘致による対応を考える。企業誘致を行うメリットとして雇用の増加と地域活性化に伴う人口増加があり、産業の活性化の効果も同時に持つため解決策として適切だと考える。企業誘致案を考える際には集積の経済や立地論などの経済理論を用いて最適な産業を導き、経済的な効果に関しては産業連関分析の中の経済波及効果分析でシミュレーションを行う。また、どれだけの人口増加が見込まれるのかについても理論的に考察する。</p>
<p>第 2 発表</p>	<p><b>釧路公立大学 神野ゼミ C</b> <b>「シャッター街からウォークブルタウンへ——釧路市中心市街地北大通の挑戦——」</b></p>	<p>私たちの今回の報告は、北海道釧路市のシャッター街である北大通をウォークブルタウンへ発展させるためにはどうすればいいか、その課題は何であるかを研究したものである。釧路市北大通は、昭和 40～50 年代に大きく栄え、百貨店や娯楽施設が立ち並ぶ中心市街地であった。しかし主要産業の衰退による人口流出や自動車の普及により郊外化が進んだ結果、北大通に住む、あるいは訪れる人口が減少し、現在ではシャッター街となっている。</p> <p>そこで釧路市では「歩いて楽しいまちづくり」を目指した『釧路市まちづくり構想』を策定し、釧路駅周辺のハード面での再構築とともに、行政に市民の声を反映させるために「まちづくりラボ」を発足させ、ソフト面での発展を目指している。私たちはこの釧路市のまちづくり構想を調べたうえで、その課題はなにか、市民は構想に対してどのように感じているのかを調査する。また、「まちづくりラボ」から派生した学生団体「くしラボ」に私たち自身が所属し、そこで実際にどのような活動が行われているのかを調査していきたい。</p>
<p>第 3 発表</p>	<p><b>都文館高等学校 A 3</b> <b>「Web サイトが握る地方創生のカギ」</b></p>	
<p>第 4 発表</p>	<p><b>釧路公立大学 神野ゼミ B</b> <b>「公共空間の創出と住民意識——ノーマライゼーションを目指した釧路市美原地区の 40 年とこれから——」</b></p>	<p>本報告の目的は、釧路市美原地区の住民による生活環境整備が住民にとってどのような意識の下で行われ、どのような意義を持つのかを明らかにするものである。美原は釧路市のニュータウンとしては 3 番目に造成された地区である。造成から 40 年以上の歴史を持ち、造成計画の段階から緑豊かなニュータウンの形成を目指したものであった。ただし、こうした緑豊かな生活環境の創造には、市（行政）による上からの整備だけではなく、住民による主体的な環境整備への参加が必要であったと我々は考えた。</p> <p>そこで現在の緑豊かな地域を維持するために、住民が環境整備に参加することの意義や、そうした環境整備に参加していくことで住民の意識にはどのような影響があったかを調査していこうと考えた。調査の方法としては、文献調査のほかに実際に環境整備を行っている方々や、町内会での花壇整備を取り仕切っている方へインタビューを行った。また、今回の研究を通して、現在高齢化問題を抱える美原地区が、今後も住民による生活環境の整備活動を継続させていくことができるための方法も提示したいと考えている。</p>
<p>第 5 発表</p>	<p><b>釧路公立大学 東ゼミ E (5 班)</b> <b>「電子地域通貨による地域活性化」</b></p>	<p>私たちの班は電子地域通貨制度の導入を提案します。現在日本の多くの地域では地域経済循環における域外への所得の流出が顕著であるため、地域通貨を導入することで地域内での通貨の循環を促進することができ、地域活性化のためのアプローチになると考えたからです。これにより期待できる効果として、地域内の消費促進、経済の活性化、人口流出の抑制が挙げられます。釧路市でこの制度の導入した場合に地域循環にどのような効果が期待できるのか、現在普及している他の電子マネー（paypay や waon など）とどのような差別化を図るのかという課題を、他地域の地域通貨の事例を参考にして考えていきます。</p>

# 北海道学生研究会 SCAN2021 大会開催に向けて

## 代表挨拶

拝啓

この度、北海道学生研究会 SCAN 第 12 期 運営代表を務めさせていただきます、札幌大学地域共創学群 経営学専攻 3 年の伊澤 滉二です。運営役員も代替わり致しましたのでご報告させていただきます。

さて、おかげをもちまして、北海道学生研究会 SCAN は今年で 12 年目を迎えることができました。昨年度は皆様の新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力により、合同研究発表会を開催することができました。皆様のおかげで本年もこの大会を開催することができます。

今後とも弊会をご支援くださります皆様に期待される研究発表会となるよう運営役員一同、努めて参りますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

まずは、略式ながら書中にてご挨拶申し上げます。

敬具

北海道学生研究会 SCAN(第 12 期)

学生運営代表 伊澤 滉二

令和 3 年 6 月 30 日

# 北海道学生研究会 SCAN2021 大会開催に向けて

## 顧問挨拶

2017年に釧路公立大学より運営事務局が札幌大学に移り、早いもので4年目を迎えます。

毎年、少しずつ変化を持たせながら北海道学生研究会SCANのあるべき姿を探りつつ、また在り方を学生とともに考え、チャレンジしてきました。昨年はコロナ禍で大会の開催すら危ぶまれましたが、皆さまのおかげで無事、第11回大会を開催できました。改めて御礼申し上げます。

2021年はようやくコロナワクチンの接種が進み、少しコロナ禍への対応が始まりましたが、まだ危機的状況を脱してはいません。今年度もオンライン大会での開催を視野に準備を進めているところです。逆境やハンデを個性に変え、むしろ発展の糧とする志を持ち、第12回大会の準備を学生とともに進めてまいります。今年も何卒、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年は3つの新しいチャレンジを試みたいと考えています。

1つは、発表方法の標準化です。従来からの地域研究の成果発表の場であることには何も変わりはありませんが、このSCANの大会発表会では外部の審査員による公平な評価により表彰する制度を設けてきました。審査員からみて、また聴講者からみても発表がよりわかりやすく、主張がしっかり伝わるように発表方法の標準化を図りたいと思います。昨年は多くの審査員の方からご指摘を頂いておりましたので、実践していきたいと思います。

2つは、参加大学、参加校の地理的拡大です。

昨年に引き続き、今年もオンライン大会を開催いたしますが、オンライン大会の良さをもっと引き出すために、北海道の主たる大学ゼミナール・チームの発表の場を全国にもっと発信できる機会を作りたいと考えました。また、同時に新規参加校を増やし、ともに地域研究を発展させていきたいと考えています。昨年度も九州・久留米市の久留米大学の先生がご参加されたように、地域研究に関心のある仲間を増やしていきたいと思います。

3つは、ゲスト発表の拡充です。

ゲスト発表は審査員による評価を前提としない発表です。自由方式で発表していただきます。内容も活動紹介や地域紹介、研究紹介といったように研究レベルにはないが、魅力的な情報提供の場を、大会プログラム上に配置し、地域研究に携わる方、地域に関心のある人たちの輪を広げ、同時に知られざる地域の魅力を享受・共有する場をつくりたいと考えています。

学生主体による手作りの研究大会ゆえに顧問の立場としてはエールを送ることしか出来ませんが、サポートできるところはしっかりサポートしていきたいと思います。今大会もよろしく願います。

北海道学生研究会 SCAN 顧問／  
札幌大学地域共創学群 経営・会計学系教授  
中山 健一郎  
令和3年7月30日

## 2021 年度 第 12 期 SCAN 実行委員会メンバー

役職	氏名	学年
運営代表	伊澤 滉二	3 年
企画代表	加藤 拓史	3 年
渉外代表	山形 透梧	3 年
広報代表	大野 皓平	3 年
企画副代表	廣島 優奈	2 年
渉外副代表	石崎 萌絵	2 年
広報副代表	山田 真平	2 年
会計担当	加藤 葵	2 年
企画担当	藤原 光至	2 年
	工藤 稜平 小林 圭太 高橋 希武 竹井 佑	1 年
渉外担当	大嶋 浩成 奥寺 洸矢 前川 慶太	2 年
広報担当	山本 広大	3 年
	阿部 秀馬 小坂 太陽	2 年

(札幌大学 地域共創学群)

○お問い合わせ

●SCAN 公式ホームページ

<http://scan-946.jimdo.com>

●YouTube

[https://youtube.com/channel/UCm5XqhSCgzoh4\\_Pd8\\_FbFLw](https://youtube.com/channel/UCm5XqhSCgzoh4_Pd8_FbFLw)

●Twitter

<https://twitter.com/SCAN48394013>

●Facebook

<https://www.facebook.com/Scan北海道学生研究会-102435562089537>

●運営本部

北海道学生研究会 SCAN 運営事務局 (札幌大学)

〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3 - 1 札幌大学

E-mail [scan\\_su@yahoo.co.jp](mailto:scan_su@yahoo.co.jp) / Mobile phone

学生代表 伊澤 滉二

(札幌大学地域共創学群経営学専攻 3 年)

E-mail [naka-ken@sapporo-u.ac.jp](mailto:naka-ken@sapporo-u.ac.jp) / (研究室 TEL & FAX 011-852-9015)

顧問 中山 健一郎

(札幌大学地域共創学群 教授)

北海道学生研究会

SCAN